



FGO Fate
Grand Order
UNOFFICIAL FANBOOK

成人向
adult only

色に出にけり
僕らの恋は

ぐた男 × 風魔小太郎

成人向けファンソロジー



一色に出

だけり

ぐだ男（藤丸立香♂）×風魔小太郎
成人向けアンソロロジー

僕らの恋は』



小太郎
乳首きもちいい？

もつと...もつと
ちくびきもちよく
してください...つ

んっ♡ちくび♡
きもちいです...♡

んっ♡♡♡
キモチ...♡♡♡

じゃあ乳首で
イけるようたくさん
いじってあげるね



GUDDAKUTA

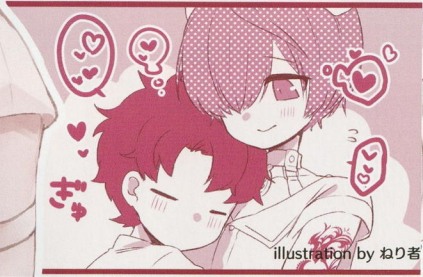
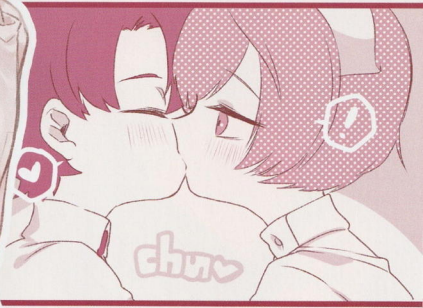
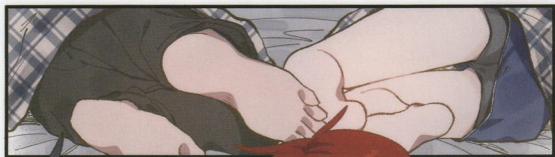


illustration by ねり者



その顔は
ちよっと
ちんちんが...

ん
〜
!!



あっ♡

主殿、ご所望の
ばにーすーつなるもの
ダヴィンチ殿に頂いたの
ですが如何でしょうか

エツツツツツ

あー♡♡♡

♡♡♡

♡♡♡

びゅん♡

はちゅ♡

はちゅ♡

あ！！

♡

♡

びゅん♡

びゅん♡

びゅん♡



右にすけべすぎ
おにすに言つて最高
忍装束も勿論最
とこつちかどより全
インがわたり易い
能ならば一生着てて
半身結構むつち

♡お気に召して
頂けたようで
なによりです
…実は他にも幾つか
貰い受けたのですが

えっ

おんなのこ♡
♡♡♡
♡♡♡
♡♡♡





主催: 卍
表紙イラスト: 友田
表紙デザイナー: MOBY様

巻頭illustration:

卍.....3
あさの.....4
友田.....5
ねり者.....6
あお子.....7
つまじろ.....8
ほつてい.....9

Illustration:

なかだ.....12
もちだ.....13
空蜂ミドロ.....14

comic&novel:

といとい.....15
ペー太郎.....25
かりーおごめ.....35
UN-do.....39
かえて.....43
ミニミ.....46
ちーまる.....67
守来宗時.....71
かご.....83
シカナリ.....88
背筋.....91
かめなか.....93
卍.....105

執筆者コメント.....130
奥付.....132

Cas Vegas Dating

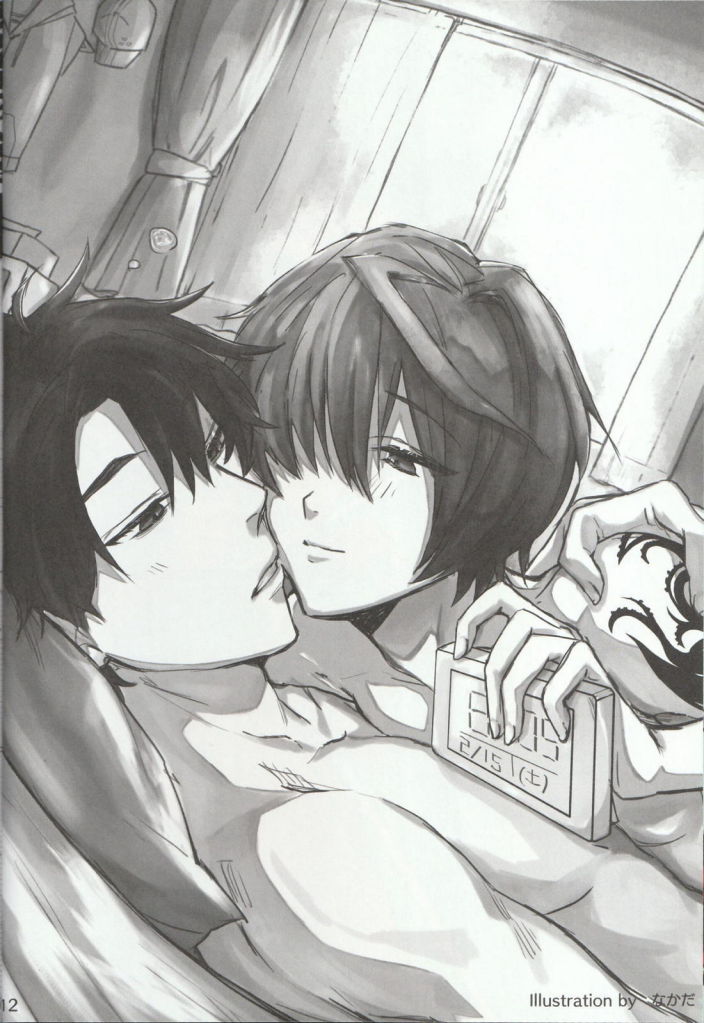
Fate/Grand Orde

ぐだ男（藤丸立香♂）×風魔小太郎 成人向けアンソロジー



色に出にけり
僕らの恋は







愛 小太郎



空蜂ミドロ

想定外の数の
エネミーだったって

ふたりとも
大丈夫かい!?

いっ!!

ないしょの媚薬

comics by といとい

はい…
なんとか…

外傷はない
のですが

少し魔力を消費
し過ぎたようです…

いつもの場所だったから
小太郎だけしか連れてなくて
油断してたよ…

よかった…

それじゃ小太郎くんにも
多めに魔力リソースを
回すから

藤丸君は小太郎くんの
そばにいて魔力回復に
努めてね

すみません主殿…
このようなふがいない
姿をお見せして…

そりゃ宝具10連発も
したら疲れるよ!!



どうしよう
主殿のつば美味しうっ

身体が主の魔力
欲しがってるっ



あーっ
あーっ
あーっ



奥が
疼いてっ...



こんなっ
はしたないのに...

やめられない
っっっ



アッ!あのっ
これはそのっ……!



小太郎……

アッ……

何してんの

がばっ



ん?
なに?

あああるじの
体液からの魔力が
美味しくてつい……

魔力が足りて
いないのでっ!



欲しい……です

フキ……♡
フキ……♡

主殿の一番濃い
魔力……僕の中に
下さい……♡

スリ……♡



そこに
欲しいんだ?

ね
言ってる?
小太郎

コソッ

アッ……







もっとぎゅって
するやつして
下さいい……!



つらがっ……!!
乳首もうだめえ!



ちゃんとして欲しいこと
細かく言って?

もうわがまま
だなあ



ナカで出した後
奥でグリグリする
やつしてください
……♡♡♡

じゃあ♡

わかった♡



主殿…あの…
そろそろ僕…もう…

えっ?
あ、うん



クク



ちゅぽん

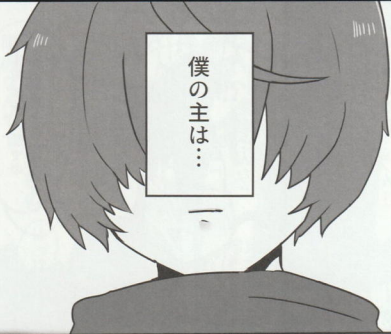


主殿はきちんと
自制ができる立派な
御方だ



今日はここまでに
しとこうかな!

そうだよね!
けっこうがつついちゃ
ったし



僕の主は…



主は



キスより先を

まったくして
くださらない。



やんわりとお伝え
した事でこうなって
しまったのだと思う

…が、主殿の方は日を増す毎
に明らかに気が抜け…
仕える身としてその辺は
きちんとご警告しなければと



主殿から告白していただい
た時は本当に嬉しく、恋仲
になってからはお互い
かなり舞い上がっていた。
そこまではいい

主殿、近頃人前での
接触も多く気が抜けてい
るか？

このままではいずれ
戦闘にも支障が
出るのでは…

えん？!!
そっそんなに
気が抜けてた!?

抜けすぎですね

そ、そっか…
そんなに…うん…

そっかあ…

じゃあしばらく人前での
接触と二人の時でも
キスより先をするのは
我慢しよう!

えっ

いや、だとしても

何故??

せっかくお付き合いすることに
なったのだから二人の時ぐらいいは…
いいや?これも何かお考えが
あつての事かもしれない…

うん。

主殿が納得して決めた事
なのならそれで良い—



主殿はこのままされるがままでいてください。いつも通りキスまでならしてもいいですよ。

ちゃんと見ていてください

僕が果てたら
終わりますので
ご安心を

ストリー...

「キスより先はしない」
って言ったこと

後悔させて
あげます♥

は...

小太郎!!

主殿...自身で禁欲を決められてからとても必死に口吸いされるようになりましたよね...

その影響かとても上達されて...
おかげでこちらは毎日生殺し状態です...

ほら...こももう
こんなに...いつもなってる
んですよ?

今日は主殿に
ガマンしていただき
ますからね

わかった

.....

キスより先を
しなきゃいいん
でしょ

じゃあそれ以下の
事はやらせてもら
うからね

随分と自信がある
みたいですが無駄
ですよ

何せこちらは
風魔の秘術を
さすがの主殿も即

…いいでしょう

主殿おこ

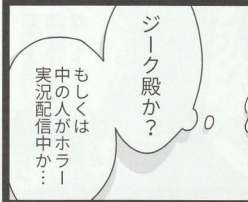
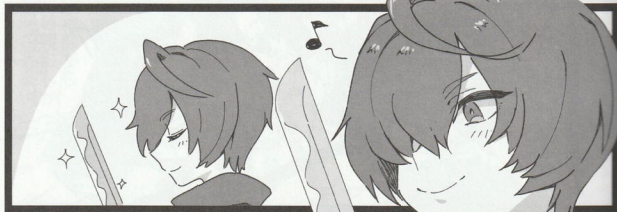
わあッ!?あ!?

何やッてるんですかあ!!

れ。

く
に







そうですよね…
主殿として立派な男

宝具マフオウマ
百レベでもう開発の
しがいのない僕より
若い僕の方がいい
ですよね…

我ながら
自慢にしか
聞こえない…

そんなこと
ないよ！
ただ…

小太郎にもっと
愛情を注ぎたい
という気持ちだ！

爆発寸前
なんだ！
この気持ち、
どうしたら…！

主殿…
そこまで
僕のことを…！

主殿をお慰め
出来るのでしたら、
僕は…

どんなご要望にも
お応え致します…！

なっ…！

夢にまで見た
禪マフラーっっ

オレの
マフラー
マフラー
マフラー





チェックアウトって何時だっけ？

たのしいお買い物つくり。

UN-do

二泊三日ってあつという間だなあ

次はもう一泊伸ばしましょうか

ライトアウトなので11時です



ジェットコースターすごかった！

藤丸先輩ずっと

叫んでましたね

4Dライドも面白かったです

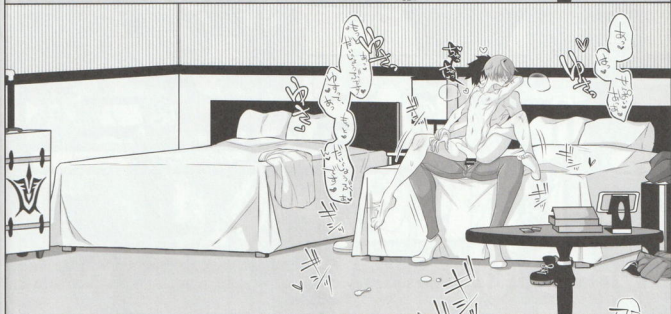
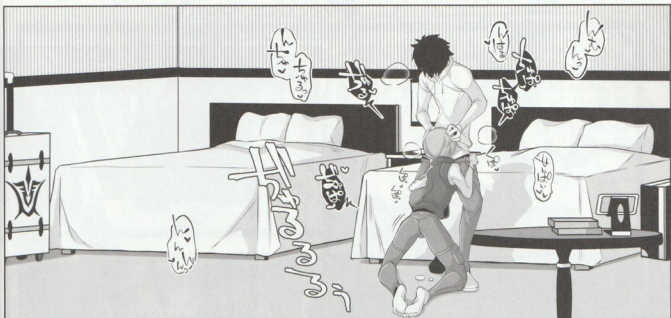
ヒーローモノってたぎるよな！

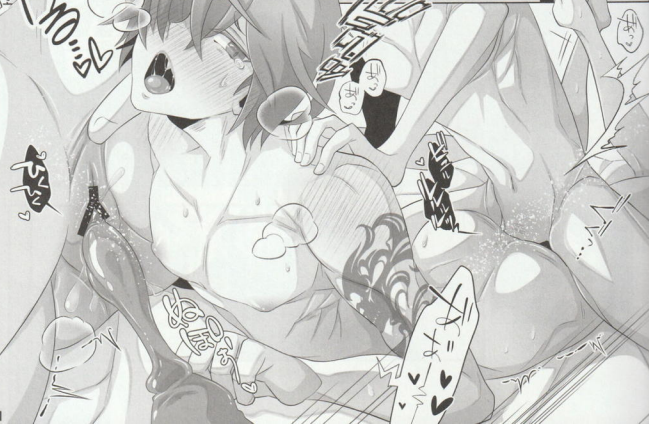
はい！

また二人で来ようね

はい









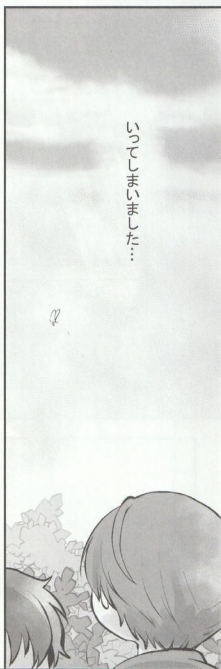
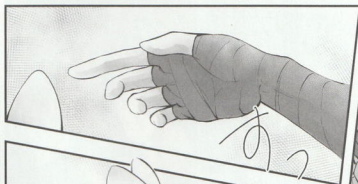
主殿…

お疲れのようですね…



あ

ちゅちゅちゅ…



いってしまいました…



主殿…

起きてますよね…？



悪いお人だ



お…

起きてません…

5日後に
えっちする
ぐだた
ミミミ

二人で立香の部屋でくだらない話をして、ふとした瞬間に会話が止まる。

止まった瞬間に目と目があって、間にある空気が温まったら、どちらとは言わず唇を寄せて、そっと合わせた。

柔らかい肌の感触に、おもわず頬が緩んで、どっどっどっと早くなる鼓動で息が上がって、頬が朱に染まる。

幸い、それは立香だけのことではなく、相対する小太郎も同じようだった。

ベッドの上に置かれていた小太郎の手の平に立香が指をかけると、そのまま指先が絡む。

確認を取らずにキスができるようになったのは、つい最近のことだった。

好意を伝えて、好意を受け止めて、いわゆる恋人同士という関係になったのはいまから二ヶ月ほど前のこと。

もともと精神年齢が近く、よく部屋で遊んでいた二

人だったが、ふとしたきつかけて関係が変わってから遊びの延長に少しだけ色がついた。

触れていい？

キスしていい？

抱きしめていい？

立香が尋ねると、小太郎は何も言わずに頷くので、己の中の葛藤がするすると叶っていく現状が、有り難くもあり少しだけ怖かった。

きつと簡単に一線を越えてしまえる。

たまにちらりと見える口の中の粘膜を見て、立香はこの身体の中に容易に侵入することができると、ぞくつとした。

小太郎の前髪をかき上げて、普段は隠れている巨元を見た。

切れ長で綺麗な赤い瞳が、くすぐったそうに細められていたところから、すつと開く。

(あっ……)

目がしつかりと合った、それだけなのにまた心臓が早く早く動き出す。

「……主殿」

小さく開かれた口の中から、赤い舌と白い歯がちらりと見える。

「……えっち……します、か？」

あの……する、ものだと、聞いて」

小太郎がおずおずと切り出した言葉に、立香は息をのんだ。

「……したい」

考えるよりも先に口に出して、それを聞いて小太郎はこくんと一度頷いた。

あっさり受け入れられた。

それを見て、急にことの重大さに気付いて、立香は両手で小太郎の肩を掴んだ。

「あ……っ」

ぶわつと嫌な汗がでてきて、口の中が渴いた。

(俺が……小太郎と……)

こんな、簡単に……して、いいんだろうか。

すごく、したいのに、こんな大事なことを、こんなあつさりしてしまつて、

……関係が変わつてしまつて、

本当にそれでいいのかつて思った時、立香は思わず口を開いていた。

「いつ、五日……ッ！」

五日後にしよ……ッ!!」

深い考えがあつたわけではなく、意味もなく大きくなつてしまつた声に小太郎は目を瞬かせるとまた一度頷いた。

「わかりました。

……五日後」

言い出した小太郎自身も動揺がなかつたわけではないうで、赤かつた頬をさらに赤く染め、きゅつと唇を囁んだ。

どどどどどどと未だ早い心臓を抑えつつ、もう一度唇を合わせようと立香が顔を近づけると、小太郎は自分と立香の間に手を挟み、そつと遮つた。

「……流石に……もうっ、心臓が……もちません。

また……明日。

……おやすみなさい、主殿」

音もなく小太郎はベッドから降りると部屋の扉を抜けて外に出た。

(また……明日。

そして、五日後……俺たちは……えっちするんだ) 一人になつて我に返つたら、勃つてるのに気がついた。

(シコつて……ねよ)

二日目

「主殿……っ、あの……っ、わいです」

いつも通り部屋に遊びに来た小太郎を雑談もせず
ベッドの上に組み敷いた。

シーツの上に縫い止められ、こちらを見上げる小太郎を見て、立香はようやくしてしまったことの意味を理解した。

「……あつ、……、ごめん」

昨日、あんな約束をしたから勝手に自分の中で燃え上がって、舞い上がっていて、小太郎と二人きりになつたってわかつた瞬間に抑えられなくなっていた。

「主殿……あの……」

「……えっち、するなら……っ、こういうことも慣れないいと……」

「あ……っ」

小太郎の上に覆いかぶさって、マフラーの隙間から除く首筋に顔を埋めた。

あわさつた胸のところから、どくどくと早く動く心

臓の音が二つ聞こえる。

（小太郎の身体……あつたかい……もつと、硬いかと思つたのに……弾力があって、合わさると……きもち……っ）

髪の間顔に顔を埋めて、立香の身体を押しそうとする小太郎の手をとって指を絡め、小太郎の脚と脚の間に膝をいれた。

「あ、あるじ……っ」

「小太郎から、言つたこと、なのに……」

「……ッ。」

て、ですが、こんなに……恥ずかしいなんて、予想外で……」

「いや……っ？」

「……いや、ては……ッ。」

……て、も……ッ、あッ……見ないで」

思いの外動揺している小太郎に、立香の方は余裕を取り戻し、正面からその顔を見た。

前髪の隙間から恥ずかしさで潤む目が見え、それが可愛くてもつと見たくなる。

普段、あまり表情が読めないのに、今日はよくわか

る。

「まだ、何もしてないよ」

「……っ」

きゅつと結ばれた唇が艶つぼくて、未だ合わせたことしかないということを思い出した。

「小太郎の中、舌入れていい？」

聞かれれば頷くことしかしない、小太郎のことをよく知る自分がこう聞くのは卑怯だなど思いつつ、立香は小太郎が頷くのをみていた。

唇を合わせて、きつく閉じられていた小太郎の唇に舌をいれると、おずおずと隙間があく。

「んっ……ッ」

舌と舌をすり合わせたら、鼻を鳴らすような声が漏れた。

(……ッ、え、ろ……っ！)

立香はさつきから硬くなってるモノを思わず小太郎の身体に擦り付けてると、布ごしに小太郎も勃起して、同じ気持ちなのだと安心した。

「……っん、……あッ……ん、ちゅ……ッ、はあ……ッ、んッ」

相手の中に自分の舌を入れて、それでなざると相手が反応して、こっちもきもちよくて、すぐ離すつもりだったのに、止まらなくて、息継ぎをする様に唇を離すと、また角度を変えて唇を合わせた。

はじめはこちらから唇を合わせて、舌を入れて、それを小太郎が受けるだけだったのに、途中から小太郎の方からも舌を絡めてくるようになっていた。

空いていた方の腕が立香の背中に回り、身体を持ち上げてても、懸命にキスを繰り返し返す。

「……はあ……っ、んっ……はあ……ッ、あるじ……っ、んっ……」

「こたろ……っ、んっ、きもち……っ」

握っていた手をぎゅつと硬く握り合う。唇を離して、唇の先と先だけが触れて、また合わさって、くちゅと水の音がして、鼻から息が抜ける。

小太郎の身体が立香の下でもじもじと身をよじるたび、むず痒いようなもどかしい快感が生まれ、それをどうにかしたくて、またじつとしてられなかった。

「あるじ、どの……っ、あるじ、どの……っ」

「こたろ……っ、んっ、すき……っ」

「僕も、すき……、ですっ」

名前を呼んで、また唇を合わせて、また名前を呼んで、思いを告げた。

ずっと夢中でそうして、ふと立香が顔を上げ、小太郎の顔を見ると、目元が溶けて、口の周りがお互いの唾液でぐちゃぐちゃになっていて、いつもの精悍な雰囲気は微塵もなく、ただ期待を込めてこつちを見つめていた。

（うっ……このまま……っ、えっち、したい……）

服の中で勃起しているものは痛いくらい存在を主張していて、小太郎のものも緩やかな袴越してもわかるくらい硬くなっていた。

（あんな約束しなければ、このまま……いや、約束とか、ただの口約束だし……このままっ）

小太郎の上着の間から手を入れて、一思いにまくつた。

白い腹が見えて、素肌を触るとすべすべと気持ちよく、一気に性感が高まってきた。

「いたろ……っ、このまま」

「だ、ダメです……っ！」

「ほ、僕はよくても……あ、主殿に、約束を破らせるわけには……っ」

立香の下からすつと身体が消え、小太郎は立香の正面に座り直すと乱れた衣類を整えた。

「や、約束の日まで……えっちは、ダメです……」

主殿に、自らの誓いを破らせるような、そのような罪を犯して欲しくありません……」

明確な拒絶の意思を伝えられ、正論に情欲に流されそうになった自分を強く反省した。

■ ■ ■ 三日目 ■ ■ ■

立香の部屋に遊びに来て、足の間に小太郎が座って、キスをするまで、躊躇いなく行われた。

昨日は恥じらっていた小太郎も、入念にむさぼるよ
うにキスしあった思い出が、慣れと欲望を生み出して、
はじめこそ少し照れていたが止めることには繋がらな
かった。

「つ……ん、ちゅ……あるじ……っ、すきっ」

「んっ……たろ……っ、かわいいっ」

もう小太郎を見た瞬間から、条件反射みたいに勃
起してしまったモノを尻の割れ目に擦り付けつつ、
ちゅっちゅっつと立香は唇を合わせた。

「小太郎の身体、触ってもいい……？」

「……はい、」

少し返事まで時間がかかったが、それでも小太郎は
小さく肯定する。

昨日と同じように服の裾から立香の手が入ってき
て、小さく身震いした。

「……んっ」

皮膚を手のひらが這う感触がくすぐったくて、小太
郎の口から小さく声が漏れる。

「僕の身体なんて、触っても楽しくないと……思いま
すが」

「いや、楽しい……っというか、興奮する」

後ろから立香の熱い息遣いを感じて、小太郎は
ぎゅっつと目を瞑った。

尻に擦り付けられる熱さが生々しくて、思わずその
先を意識してしまう。

あばらのあたりにあった立香の手が自分の胸に触れ
て、少し胸が痛んだ。

「すみません……何もなくて。」

主殿もやはり大きな乳房の方がお好みですか
……？

「大きいのは、思わずうわってなるけど……俺は小太
郎が好きだから。」

関係ないっというか……いまもすごいドキドキして
るし」

「……はい。」

ならば……よかったです」

かあつと身体が熱くなる。

比べるものではないと分かかっていても、いつも劣等感を感じるところを呆気なく肯定されて、立香にしかなれさせるつもりのない身体を、その立香がいいというのであればもう躊躇うことも出来なくなる。

こんな何もないところを飽きもせず揉んで、楽しいのかと小太郎が思った時、ふつと淡い感覚が湧いた。

（あつ……えつ、なんて……）

さつきまではなんともなかったのに、急にピリツと電気が走るように胸の先端が気持ちよくなり、身体が反応してしまふ。

そんな小太郎の変化を目ざとく見つけて、立香は同じところを指で触った。

「こゝ、気持ちいいんだ」

「……あつ、いや……っ、なんだか、むずがゆ……っ、ひッん」

触られ続けるうちに硬くなった乳首に爪を立てら

れ、思わず上がってしまった声を両手で押さえた。

はじめはそんなこともなかったのに、だんだん声を抑えられないほどの刺激が生まれた。

「……っ、あッ……あ、あるじ……どの……っ、もう……やめ……っ」

立香の手から逃げようと前に倒した身体を抱きとめられる。

「逃げないで」

「……っ」

「小太郎の声、もつと聞きたい」

回された手にぎゅつと力が入る。

切にそう懇願され、小太郎は座りなおすと立香の胸に背中を預けた。

両手をだらりと下ろし、胸を張ると逸る胸を抑えて、もう一度立香に触れられるのを待った。

（……は、恥ずかしい……ッ、でも、主殿がそこまで……僕を望んでくれるのなら……）

「……っ、んッ……はあ……っ、あるじ、どのッ……っ、ああッ！」

ほしいと思っっているのに。

「ため？」

お願い、小太郎」

乞われると、それを拒むことができなくて、小太郎は一度だけ頷いた。

声が聞きたいと言われても、あのような媚びたような声を立香に聞かせたくなくて、小太郎は唇を噛むのだが、敏感な所を摘まれ容易にその戒めは解けてしま

う。
「ッ……おッ♡んッ♡ひッ……ん♡」

立香の手が離れると痺れるようにじんじんと胸の先端が疼く。

気持ちよさだけを与えられて、くすぶる身体をよじると尻に当たった立香のモノを感じて、その硬さと熱さに思わずびくっと反応してしまう。

「あ……あるじ、どの……ッ」

思わず名前を呼んでしまった小太郎自身にもそれが『もっとして』なのか、『もうやめて』なのかわからなかった。

しかし、とろんと溶けた顔で名前を呼ばれ、その淫靡さにもつと変わる所がみたいと立香は思った。

「あ……ッ♡はあ……ッ、くッ……そ、れ……え♡」

さっきまで胸板と一体化していたはずの乳首はいじられ続けるうちに固く存在を主張している。

それをきゅっと摘まれ、じわっと小太郎の鈴口からカウパーが漏れる。

「んっ……んっ……♡

はあ……っ、はあ……♡

おっ……あ……あっ……♡」

もどかしくてヤメて欲しいのに、きっかけがなくて終わらなくて、立香の手にいつまでも応えていくうちに、最後には蚊の鳴くような声で、ただ身体を震わせる形になっていた。

■ ■ ■ 四日目 ■ ■ ■

「あの……本当に……？」

ベッドの上で向かい合わせて抱き合うように座り、自分の尻を撫でられ、思わず小太郎は聞き返した。

「明日……入らないと嫌だし」

小太郎のアナルを触ってみたいという率直な要求に何度か断ったのだが、そのたびに正當に思えてしまう理由をつけられ、逃げ道が塞がれていく。

尻の割れ目に指を入れられ、穴の位置を探され、思わずひんつと身体が跳ねた。

「あ、主殿……」

直接見られるより、触られるよりマシだと決意して、立香の耳元に口元を寄せた。

「実は……ここ数日……主殿に迷惑をかけてはいけな
いと、自分で……広げていきますので、たぶん……大丈夫かと」

自分の中の最大の秘密を暴露して、これはもう許されるかと身体を抜いた小太郎の身体を立香はぎゅっ

と強く抱きしめた。

「じ、自分で……っ？」

「は、はい……」

「いつもこの部屋出て行った後に？」

「……そうなります」

「……なんて!？」

「何故と聞かれましたも!？」

親愛の証の抱擁というよりは、逃がさないという束縛に近い。

「なんて……小太郎……一人で、そんな、えっちなこと、するの……」

「えッ？」

急に立香の声に力がなくなり、逆に小太郎が驚いた。抱きしめられ、顔は見えず、あまりのしおらしさに罪悪感すら芽生えた。

「……俺と、するの、嫌だった？」

「そ、そういう訳ではなく……ッ。」

僕は、主殿に迷惑をかけたくない、一心で……
「……気持ちよく、なかった？」

「そ、それは……」

口を開けば開くほどドツポにハマっていると理解しているのに、逃げるのが叶わず小太郎の背中に嫌な汗が伝う。

「……見たかった」

「お、お見せするものでは……ッ」

「じゃあ、俺がする」

「あの……あの……ッ！」

主殿……ッ！」

「選んで。」

自分でするのを俺に見られるか、俺にされるか」

「うう……」

逃げ道がない。

そんな痴態、見られたくない。

明日には嫌でも見られるのかもしれないが、少しでも先延ばしにしたいのが心情で、そのための準備でもあったのに……。

「……俺だって、小太郎を傷つけたくない、から……

わかって」

(……ずるい)

腕の力が緩んで優しく抱きしめなおされると、こんな許すことしかできなくなる。

「では……」

耳元でギリギリ聞こえる声量で囁くと小太郎は赤くした顔を背けた。

「……ん……ッ、はあ……ッ」

少だけ苦しそうに小太郎は眉を寄せ、艶っぽい息を吐いた。

ベッドに座る立香の肩に正面から片腕を回し支えにした小太郎は、立香の身体を跨ぐようにして膝立ちになった。

袴の紐を緩め解くと、膝裏で布が折り重なる。

後ろ手で小太郎は自分の指をアナルに埋めると、その衝撃で熱っぽい息を吐いた。

「はあ……ッ、はあ……ッ、んッ、主殿……ッ、ほら……ッ、このように……」

腕の動きで立香にも抜き差しされていることはわか

る。

わかる、が、あまりに上半身が密着しすぎてるが故に立香の視界には小太郎の頭と上半身、それと露わになった脚くらいしか見えない。

「小太郎……っ、見え、ない……」

「……あッ……これが、精一杯、ですの……んッ……はあ……ッ、主殿の……っ、こゝ命令通り……自分で……ッはあ……ッ、して、おりますッ♡」

これで……ッ！な、なにとぞ……」

だんだん小太郎の声が熟っぽくなり、表情も明らかに弛緩している。

(……気持ち、いいんだ)

そう気付いた瞬間、ごくつと唾を飲んだ。

そして、自分のモノが中に入ればこういう表情をさせることができるんだと、期待で性器がずくつと熱くなった。

「あ……っ、んッ！あ……ッ♡あッ♡」

「……気持ち、いい？」

「う……ッ、あ、まり……ッ、みないて……ッ

くださいっ……んッ♡

このようなところで、感じて……ッ♡

あさましくて……ッ♡」

小太郎は立香から顔を背け、目蓋を伏せた。

「なんて？」

俺とするために、そうやって準備してくれてたんでしょ？

嬉しいよ……」

「あ……ッ♡んんッ……主殿、どのッ♡」

立香に見られていると思うと何時もよりも何倍も気持ちよくなってしまう。

そして、いままでココまでして立香に愛されたいのかと、自虐的に思っていた自分の行為をあっさり肯定されて、嬉しくて止まらなくなる。

(あるじ、どの……ッ♡はやくッ♡)

なか、いれたいっ♡んッ♡

あるじ、どのッ♡すきッ♡すきッ♡♡♡

えっちしたら、もつと奥まで、ぎちぎちになり♡

指が届く範囲の気持ちいいこと♡主殿に全部ダメ

にされて…ッ♡しまっ…ッ♡

きもち、いいッ♡

早くッ♡したいッ♡えっち…ッ♡主殿と…ッ♡

指の本数を増やして、抜いて入れて抜いてと早くしていくうちに、ぐぼつくぼつと恥ずかしい音まできこえてくる。

「…普段からそうやってオナニーしてるんだ」

「ん…♡そうッ♡です…ッ♡

主殿が…ッ♡ここ、入ってくるのッ♡想像して

…♡…♡…♡

一人で…ッ♡♡

まだ…ッ、中でイクのはあまり得意では…ッないので…♡♡あるじ、どのに、見られてる…♡いまなら♡♡

上手に…ッん♡♡イける、かと…♡♡

小太郎は立香を通しての腕の支えだけでどうにか身体を支え、懸命にアナルで自慰をした。

どうせなら、日頃の修行の成果を立香に見て欲しい…♡…♡

こんなにもその日を待ちわびて、いたのだから。

「…主殿♡♡」

目元も溶けきって焦点のあわない瞳で、立香を呼ぶと小太郎は耳元で囁いた。

「射精…♡しないように…♡♡僕の…♡魔羅、握って♡止めてて、ください♡♡

メスイキ、すると…♡…♡見えて♡♡ください♡♡

たくさん…♡♡勉強…♡♡

したんです、よ…♡♡

乞われるまま、さつきからカウパーを垂れ流し苦しそうにしている小太郎のモノを握ると、その硬さと熱さに驚いた。

そんな塞き止めるほどきつく握ってもいいものかと思ひ、立香が小太郎の方を見ると熱っぽい視線を投げ顔いた。

「明日、いっぱい、出しましょ♡

いっぱい♡♡いっぱい♡♡

主殿も…♡今日は、抜かないで…♡♡くださいね♡♡明日…♡♡全部、僕に…♡♡出して…♡♡ん♡♡

お願い……ッ♡しますッ♡

強欲に強請られて、表情も仕草も全部エロくてこれをオカズに抜きたくて仕方ないのに、明日のことを考えるとあまりに惜しくて立香もズボンの奥でガチガチに硬くなったモノを触れないでいた。

(はあ……ッ、えっちした、い……ッ♡)

手とか、じゃなくて……ッ!

小太郎の身体で、抜き、たい……ッ!

「……ッ♡

おッ♡おッ♡おッ♡

ふ……ッ♡きもち、いっ……のッ♡

登って……ッ♡きて……ッ♡

おッ♡あるじッ♡んッ♡んッ♡んッ♡

「はあ……ッ、明日……ッ!

小太郎が、ヤダって言っても、ヤメないからッ!

「んッ♡は……いッ♡

「いっばいイかせて……ッ!はあ……ッ♡

いっばい出すからッ!!

「はいッ♡

あ、朝まで……ッ♡お付き合ひ、しますッ♡♡♡

「小太郎……ッ♡すき……ッ♡

……んっ、ちゅ、むッ♡

小太郎の顔を無理やりこちらに向かせると、開いたままになっていた口元に立香のものを合わせて、舌を絡めた。

「んッ♡んッ♡ちゅっ♡はあ……ッ♡あるじ、どのッ

♡あるじ、どのッ♡♡♡♡

おッ!!んッ♡くッ♡おッ♡い、くッ♡♡

んッ♡んッ♡んッ♡♡♡♡

小太郎の身体がビクビクと痙攣して、くたつと力が抜けた。

立香の手の中で未だ硬くなったままのモノはカウパーでぐちゅぐちゅになってはいたが、精子は出ていなかった。

■ ■ ■ 五日目 ■ ■ ■

小太郎が部屋にきた瞬間、待ちわびていた立香は無言で手を取ると引いて、ベッドの上まで連れて行った。

小太郎も無言で俯いて、引かれるまま従う。

繋いでいる手がじつとりと汗で濡れ、触れ合ってるだけなのに、心臓が忙しく動いた。

「ある……ッんッ」

向かい合わせに座って、小太郎が名前を呼ぼうと口を開いた瞬間に塞がれ、服の中に立香の手が入ってくる。

くすぐったいところ、気持ちいいところ、バレてしまったところを全部手の平で撫でられ、そのたびにビクビクッと小太郎の身体が震える。

「今日、外で小太郎と目が合うたび、

あっ、あと何時間たったら、小太郎とセックスするんだって思ったら……ッ！

勃起とまなくてッ！

「んッ♡……ッ♡僕も……ッ♡

僕も……ッ♡主殿を、見かけるたび……ッ♡

えっちな妄想、止まらなくて……ッ♡

早く、主殿のッ♡んッくう♡ものに……ッして欲しくて……ッ♡

おッ♡ちくび、やッダッ♡」

急くように服を脱がされ、期待で熟れた先端を囁ま

れる。

ここ数日覚え込まされた感覚は、すぐに蘇り小太郎は背中を反って受け止めた。

「今日は小太郎がヤダって言っても、無理やりするか

ら！」

「んッ……ッ♡はいッ♡あッ♡

主殿……ッ♡

一度、抜きませんか……？

その方が……ッ♡長くでき……ッ♡あッ♡」

「そんなに長くハメて欲しいんだ？」

小太郎は、えっち、だな

「おッ♡だ、だって♡

んッ♡くッ♡

ああ……ッ僕も……主殿をお慰め……したいッ♡

小太郎は立香の股間の膨らみに指先を伸ばすと、形をなぞるように触れた。

立香に、膝立ちになるように促し、下着まで下ろすと血管が浮くほど硬くなっているモノが目の前に現れる。

パンパンに張った袋の重さを確かめるように下からすくう。

「あ……ッ♡こんな……重く……ッ、昨夜、我慢して、ただだけたんですね……ッ♡

ん♡主殿の精子、出たい♡出たい♡って、中でぐるぐるして……ッ♡はあ……ッ、全部♡♡ちゅ♡♡い
まから、僕に出して……♡ん♡♡ください、ね♡♡

今日一日勃起が止まらなかったというのは、本当のようて下着を脱がせても、蒸れた性臭がする。

その中に顔を埋めて、小太郎は舌を裏筋に這わせる
と亀頭まで辿り着き、口に啜えた。

「ん♡♡ん♡♡ん、ふ♡♡あ♡♡主殿……♡♡

ん♡♡♡♡

……そ、そのようにされると、「正しく……♡ん♡♡奉仕でき、ず……♡♡あ♡♡」

口の中いっぱい立香のものを含みながら、乳首を弄られ、その度に身体がびくつと硬直する。

絡めた舌もそのたびに止まるので、抗議の意味も込めて小太郎は立香を見上げた。

「……でも、小太郎が感じてるの……♡、みると……す♡♡い、クル……♡♡し！」

はあ……♡、小太郎なら、できる……♡、ん♡♡！
「はあ……♡、ん♡♡♡い、じわるな……♡……♡、お方だ……♡♡♡♡♡♡♡♡

あ♡♡♡♡♡♡♡♡

くりくりと摘むように潰され、それでよがるのはやはり本意ではなかったようて、立香に射精させるため、小太郎は口を窄め、素早く抜き差しした。

じゅ♡♡ぽ♡♡♡♡♡♡♡♡と、空気と唾液が絡む音がする。

もうずっと射精への期待だけを煽られていた立香のちんぽはすぐに反応してしまい、外に出ようと精子が

登ってくる。

「おッ、てそッ。」

小太郎の中に、出している？

んッ、くッ！

もつと自分にとつて都合のいい速度にしたくて、こくこくと頷く小太郎の頭を掴むと腰を打ち付けた。

「んッ！んんんんんッ！！」

「あッ♡デるッ！！」

んッ！！

小太郎、全部、飲んで！！

奥でッ！出すから…ッ！！

「んんんッ！！んんんんんッ！！」

喉チンコの奥にドロドロの精子を出され、それを吐き出すことなく飲み下すと、小太郎はずるりと口内のものから口を離れた。

少し荒くなった息を整え、立香を熱を帯びた視線で見上げると小さく口を開いた。

「…：…：しましようか」

「んッ！！ッ…♡くッ、んッ…♡」

きつい入り口を抜けて、立香のモノが一気に挿入される。

カリで昨日散々いじられたところを余すことなく刺激され、小太郎は仰向けて両脚を抱えるとその衝撃に身体を硬直させた。

ベッドの上で仰向けになる小太郎の腰を掴み、表情の変化を見ながら一番奥まで挿れた。

立香の形で腸壁が広がり、壁の奥にある器官まで圧迫される。

受け入れたことのない大きさを体内に埋められて、苦しいのに同じくらい気持ちよくて、小太郎は涙目で何度も大きく息を吐いた。

立香が動くときれいだけで身体が跳ねて、息の間に甘い声漏れる。

「はあ…♡あぁ…♡あッ♡んんん♡…：はあッ♡」

「小太郎の…♡、なかッ…♡！きつッ！…：はあ…♡、

あつくて…ッ！きもち、いっ！

「んッ、くっ♡…ッ、ばく、も…ッ♡気持ち、いいッ♡あッ♡ああッ♡」

ずるりと立香のものが抜けるたびに腰ごと持ってかれそうになるのに、またすぐ突かれそのたびに目の前がチカチカする。

前立腺を押されるたび、びゅくびゅくと射精が止まらない。

指では絶対に触れることのできないところまで、挿れられてピストンされると知らなかった性感も暴かれて、何度も小太郎は身体をビクつかせた。

「こたろ…ッ♡こたろ…ッ♡んッ…はあ…ッ、これ、ヤバイ！は…ッ」

「ん！んんッ♡あッ♡おーッ♡」

「ちんこの…ッ、気持ちいいとこッ！ぞりぞりされるッ！ん…ッ！」

狭いところを無理やり掻き分けて、奥に挿入し、入っていく時に神経を全部撫でられるような快感がほしく、立香はギリギリまで抜くとまた小太郎の奥に挿入

した。

腰を打ちつけるたびに、バチンッと音が聞こえる。

（あるじッ♡どののッ♡魔羅ッ♡♡きもち、いいッ♡きもち、いいッ♡）

セックス…ッ、ムリ…ッ♡

たくさんッ♡たくさんッ♡愛されて…ッ♡

こんな、の…ッ♡ハマっちゃう♡

んッ♡何もッ♡考え、られな…ッ♡♡♡♡）

「おッ♡おおーッ♡♡んッ」

「おッ、…キ、ッ！

デセッ！！」

立香が腰を引き、外に出そうとするので反射的に小太郎は両脚を立香の背中に絡めてしまった。

「んッあッ!?ちよ…っつと、こたろッ!?

はなし、てッ！

なかに…ッ！でちゃ…ッうッ?!」

「ッ…!!

おッ♡こ、この…ッ、んッ♡ま、まッ!!んッ♡♡♡」

「はッ！あッ！くそッ!!

て、るッ!!」

「ーっ♡♡♡♡」

立香が一番深く腰を打ちつける強さと同じくらい小太郎も脚で立香の身体を抱いた。

体内にだされた立香の精子を介した魔力が脳まで駆けていく。

(ッ……あッ♡)

これ、頭、真っ白に、な……るッ♡♡♡♡)

自分のモノで弛緩して、ベッドの上に身体を投げ出して、自分と相手の体液でぐちゃぐちゃになっている小太郎を見ていたら、抜いてもいないのにまた硬くなってくのが、わかった。

(や、ばい……っ、全然おさまんな、いッ!

セックス、すこ、い……ッ)

気が抜けている小太郎の体内からギリギリまで抜くと、もう一度パチンと音がしそうな勢いで最奥まで挿入した。

「んッあッ!」

「……もう、一回。」

まだ、出来る、よね?

いっぱいイかせて、いっぱい出させてくれるんだもん、ね」

「……ッ♡は、はいッ♡

してッ♡

お預けしたぶん、いっぱい♡♡♡♡

いっぱい、してッ♡ください♡♡♡♡」

腕を伸ばして、立香の首を捕まえると小太郎は無理やりこちらに倒し、唇を合わせた。

「ん、ちゅ……ッ♡あるじ、どのッ♡

ん♡♡む……♡♡すき♡♡

すき♡♡あッ、む♡♡」

「ん♡……♡♡、こたろ♡♡ちゅ♡♡

すき♡♡ん♡♡」

ちゅむ、ちゅむと舌を絡める音がした。

「あ、朝だ」

「朝……ですわね」

いつも通り設定してあった目覚ましがなり、突如我に返った。

あれから、場所を体位を変えてやりまくった。

最後の方はもうただ挿れてるだけ、ただ抱き合ってるだけ、ただキスをして触り合ってるだけというものもあったが、それにしても、宣言通り朝になってしまったことに、謎の充実感と虚無感が湧いた。

「……はじめて、しましたが、コレは、なんというか……想像以上に……」

「……やばい。」

気持ちよすぎて、何も考えられなかった」

自分の痴態を思い出し、少しの間無言になったが立香の方が先に小太郎の方を向き、その髪に触れた。

「でも、また……しょ……」

あんなだけお預けするのは、もう……しばらくはいい

かなって思うけど」

「は、はいっ！」

小太郎が屈託なく笑うので、こんな表情を見れるのも自分だけなのだと思うと心臓をぎゅっと鷲掴みにされる。

「……かわいいっ」

「あ、主殿、こそ……ッ」

笑い合っただけのままキスを交わしたりしている二人はすっかり忘れていたのだった。

今日がボックススイベ、初日だということを。

海行こう
小太郎……!!

①







その後俺たちは
海でラプリーな
ひと時を過ごした



着替え

あの……
そんなに
見られると……

そう言えば
禪締めてるとこ
見たこと
なかったなって

……
締めて
みますか？
主殿……

え!?



……!!
小太郎

「忍者って可愛い」
俺は改めて
そう思った……

よし……

あの……
お願いします……!

はじっ……♡



嬉しそうな顔が
あまりに可愛くて
1週間後また
すぐ来てしまった

完



小太郎!

たいたい

主殿

勿忘草
守来宗時



小太郎の部屋
入るの初めてだ



部屋まで?
運ぶの手伝うよ

あっ

ひょいっ



…ありがとうございます…

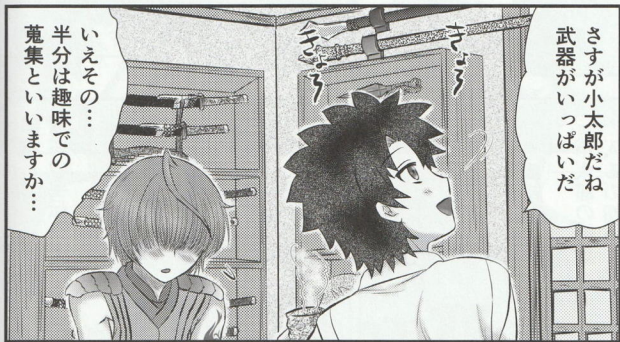


荷物ここでもいい？

はい
あの…

宜しければ
お茶をいかがですか

いいの？
飲む飲む！



さすが小太郎だね
武器がいっぱいだ

きょう
きょう

いえその…
半分は趣味での
蒐集といえますか…



先程の荷も
新しく届いた
品々でして

配達待ち切れず
取りに行きました

わかる！
ウズウズするよね

一緒に
見ていいの？

はいっ



成程〜!
凄いなあ



痛っ



おー!!
カッコイイ!!

これは猫手と言
い毒を塗り掻き傷を
負わせたりします



はな



主殿

ごめん...!
小太郎の大事な
コレクションなのに

構いません!!

主のお身体が
一番大事です!!



小太郎…

もう…
大丈夫だから

……いえ

どく…

ちゅっ

ちゅっ

ひゅっ…

こ…



あつ

主のお怪我は
全て僕の責です

どうか償いをさせて下さい

小太郎?!

わんっ…

指を咥えた際こちらも
反応なさっていたので

拙劣で誠に申し訳ありませんが
この小太郎、主の摩羅を
鎮めさせていただきます…!!

小太郎っっ

そんな事
しなくてもいいか…らッ

あ
むっ…♡

ゴロニッ

こたろ
ちよっ…
待って

待って…

じゅぽっ♡
じゅぽっ♡
じゅぽっ♡
じゅぽっ♡
じゅぽっ♡



忘れません、絶対に…!!

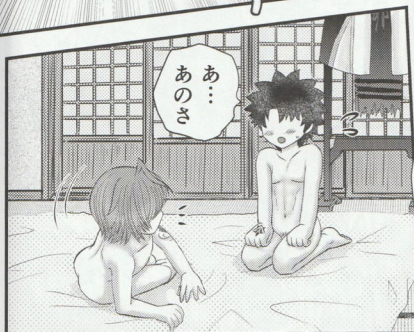
だって

僕も主を
大好きですから…っ!!

主殿

責としてではなく
好いた者としてならば、
触れても構いませんか…?

うん…!!!



勢いこうなっちゃったけど
俺っ軽い気持ちじゃないから！

小太郎の事
滅茶苦茶大好きだし、
ずっと大切にしたい!!

だから…だから！

いつまでも傍に
いて下さい!!!



刻ときが許ゆるす限り、
この小太郎は
主殿と共に…



す…

勿論です



いつまでも…

何かしらの
特異点的なところで
小太郎とマスターは
捕まってしまった！

漫画:かこ

っ…
主殿…

小太郎!!

この謎洞窟のせいかな
通信が機能しない上に
他のサーヴァントが
召喚できない…!!

しかも…

縛られてる小太郎が
想像以上に可愛くて
興奮する

参った

お尻からの
アングルも見たい



あ…主…

あ……

シャドウサーヴァント
が……！……！……！

めっちゃ小太郎に
えっちなことしそうな
なんですけど……！……！……！

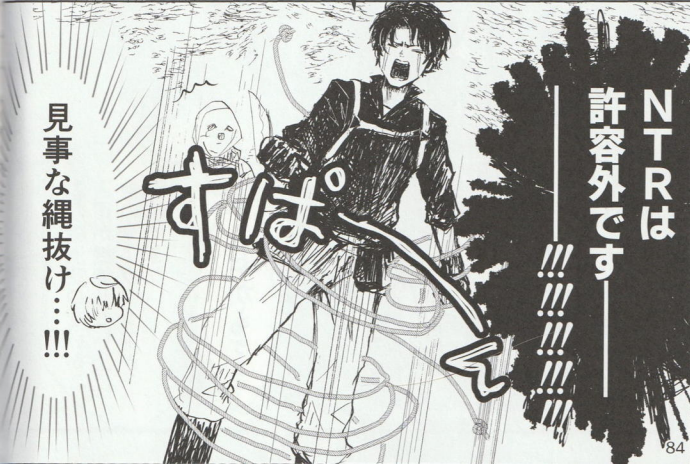


NTRは
許容外です


すば

!!!
!!!
!!!
!!!

見事な縄抜け……!!!









敵に捕えられるなど…
小太郎一生の不覚…

…
!?



……いけない子だ
…小太郎…



お仕置きだな…

あっ…主殿…♡

…やっぱいなーこれ…
楽しい…可愛い…

早く帰らないと
いけないのに…

あ、
主殿…

先程…

身を挺して庇っていただき…
有難うございます…

うっ
当たり前だろ！

すりすり♡

俺は小太郎が
一番大事なんだよ

主殿…

あれ？

息をするように
縄抜けている？…？

あ

アッそんな股間を
ちよちよ待っ♡



2人は朝まで帰って来なかったが…
カルデアスタッフは慣れているのだ…

おわり

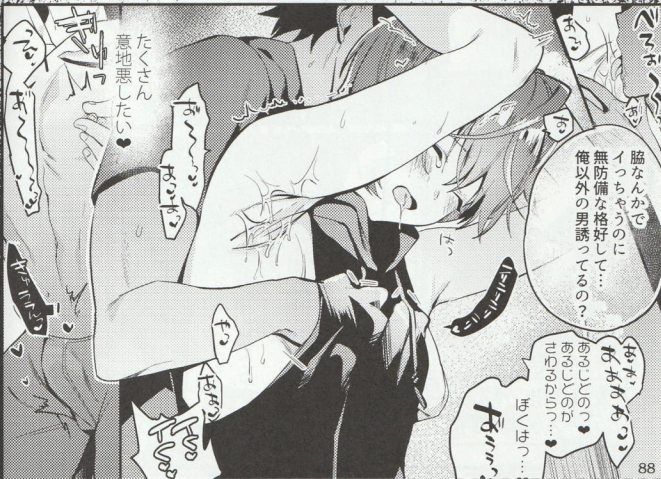


それでは主殿っ
買ってまいりますので
しばしお待ち下さい

十三

正気じゃ
ないだろ
性的すぎる

なめしゃぶりたい
泣くまで
しゃぶりたい
それから



たくさん
意地悪したい♡

脇なんかで
イっちゃうのに
無防備な格好して...
俺以外の男誘ってるの?

あるじのっ
あるじのっ
さゆりかちっ...♡

手くっ...
Fuuuuuu

ぐだこた年表①

2016.7~2018.7



2016年7月11日

- ・風魔小太郎実装
- ・「天魔御伽草子 鬼ヶ島」イベント
- ・カルデアサーヴァントでない小太郎のぐだ男への呼び方は「〇〇君」

2016年11月28日

- ・「二代目はオルタちゃん ~2016クリスマス~」小太郎登場

2017年3月25日

- ・「Fate/Grand Order」1st Episode MEMORIAL BOOK 第一部完結記念本に佐々木少年先生の描きおろし寄稿小太郎主へ向けて微笑む小太郎が描かれている。

2017年10月14日

- ・「亜種特異点Ⅲ 屍山河河舞台 下総国 英霊剣豪七番勝負」配信開始
- ・献身的にぐだに仕える小太郎の姿に多くの小太郎狂いを生み出した

2017年10月25日

- ・「ハロウィン・ストライク!魔のビルドクライマー/姫路城大決戦」配信開始
- 姿は見せずともぐだに礼装身代わりの術を教え、通りすがりのふりてマッシュにヒントを与えた

2017年11月2日

- ・風魔小太郎幕間「刃にてその心を断つ」実装
- 亜種特異点Ⅲクリア/再臨段階第三/絆Lv.5以上で開放
- シナリオクリアで宝具強化された

2017年12月26日

- ・FGO第2部プロローグ「序/2017年 12月26日」配信

2017年12月29日

- ・「Fate/Grand Order materialⅣ」発売
- 風魔小太郎の設定資料が掲載されている。



2018年1月24日

- ・「節分酒宴絵巻・鬼楽百重塔」イベントに風魔小太郎
- 小太郎とぐだは直接話すシーンはないが、ぐだの鬼種という存在への問いかけに応える貴重なモノローグは必見

2018年2月25日

- ・TV版Fate/EXTRA Last Encoreに風魔小太郎、ほほモフ

2018年3月7日

- ・カルデアボーイズコレクション2018の礼装「雨上がりの君」でCBC先生に描かれた学生服の小太郎は多くのぐだこた学バロを生み出した

2018年3月28日

- ・「Fate/Grand Order Original Soundtrack II」ジャケット絵柄
- につつすらと風魔小太郎が描かれている（ほとんど見えなし）

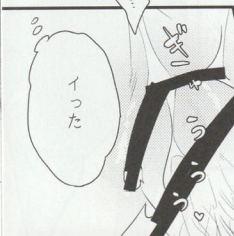
2018年4月29日

- ・Fate/Apocryphaコラボイベント配信
- 小太郎は出ないが、シークからぐだへの貴方の身近なサーヴァントとの問いかけに選択肢次第で小太郎の存在がほのめかされる

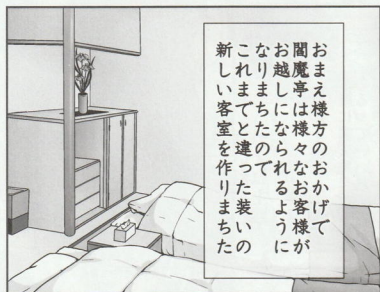
2018年7月28日

- ・佐々木少年先生が英霊旅装にちなんで
- 英国に潜入する小太郎をtwitter上で投下し小太郎のオタクを大喜させた
- 尚、佐々木先生が執筆した同年FGOフェスに展示される色紙には
- 潜入任務を済ませ主殿の元へら帰還する小太郎が描かれている。









おまえ様方のおかげで
閻魔亭は様々なお客様が
お越しになられるように
なりましたので装いの
これまでと違った新しい
客室を作りまいた



— 拝啓

こちらは新緑が
日に鮮やかに映る
季節となりまいた

是非招待したく
是を取ったく
次筆でち



藤丸

契りを交わした相手が
いると言っているまいたね



小太郎





二人きりで
落ち着きますね

はい



ふう…

部屋に露天風呂が
あるっていいねえ

良い温泉
ですね主殿

ふたりで羽を伸ばしては
いかがでちゆか？



チェックイン時

ハメを外すのは
ちよつと…

お部屋は
離れチユン！
ハメを外しても
大丈夫だチユン！



小太郎
夕食まで
散策しようか

あつ
ダメだ！

気がついたら
ずつとベッドの上…
ということになりそう

…まあ
たしかに

他の客室から
離れていたなあ

はい！

ですが
主殿…



おいしい

チュ!

何かあったの？

申し訳ない
チュン!
ちよっと
トラブツたチュン

俺らに手伝える
ことあるかな？

大丈夫チュン！
ゆっくりしてて
欲しいチュン

この後
お部屋に
行灯を持って
行くチュン!

いえ

僕たちは床に就く
だけです
結構ですよ

チュ!

了解
チュン!

小太郎…?

さあ主殿

足元にお気をつけて



大丈夫ですよ
主殿

行燈：
やっぱり
借りない？

小太郎がよく
見えないなあ

目が慣れてきても
部屋の中が暗い…

今宵の
閻魔亭の月は

とても明るい
ですから――



小太郎のことだよ



はい
主殿

閨魔亭の月は
綺麗ですよ



…

綺麗だ



もう
挿れるの？

んっ…
くっ



照れ
ますね…

小太郎のこと
もっと
見ていたいな

主殿…

…では
このままで

はい

ずっと…主殿が
欲しかったので…

あっ

ああっ…あ！



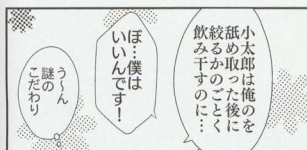
主殿の顔に
飛んでしまっ
てはいけません
ので

気にしない
のになあ

初めは我慢が
できませんし

小太郎は上だと
禪したままで
挿れるよねえ

あ
あ
ぎゅるるるん



ほ…僕は
いいんです!

小太郎は俺の
尻め取った後
に絞めるかご
とく飲むすの
に…

うん
謎の
こだわり



キス
好きでしょ

よし、
じゃあ
今のうちに
たくさん
キスしようか



…好きです



次は小太郎
が出るところ
を見せてよ

…主殿

そのように
言われますと
恥ずかしいの
ですが…

かかってしまっ
てもお口に入れ
ないでくだ
さいね?



唾液はいいんだよなあ...

んっ

んっ!

んっ♡



主殿...

見ていて下さいね



あっ

ある...じ!

くっ...!



俺も...出すよ

あるじ...

すみませんもう出ます

— 暁闇に
朝げの匂い

半受肉の状態では
お腹が鳴って
しまいそうです

うん
いい匂い

俺もうお腹
ぺこぺこだよ

主殿

朝げまでには
まだ時間が
あります故

ひと眠りして
おきましよう

そうだね

いただきます！



若い男の子は
良い食べっぷり
でちねえ

追加で
まかない飯も
持ってくるでち

紅ちゃん
ありがと〜！

女将

失礼
致します

この度は
僕の申し出を
受けてくださり
ありがとうございます
ございました

ちゅっ！

顔を上げる
でち……！

あちきからの
招待とちまちたが
本当によかったの
でちか？

はい
僕には一切
気を遣わず

主殿には
心を休めて
いただきます
たかったので

…
小太郎

おまえ様方の旅路の
果てでのご利用を
閻魔亭一同
お待ちしてらでち

過酷な路であろうとも
前へ進むしかない

だからこそ
辿り着いた果ては――

主殿っ

猪の角煮
ですよ！

おお〜！

よし

マスター藤丸
カルデアに帰ったら
また頑張ります！

ふふっ

お供します
主殿！

あなたと共なら
どこまでも

ぐだこた年表②

2018.9~2020.5



2018年09月25日

・一番くじONLINE Fate/Grand Order~sugar pochette3~に風魔小太郎登場

2018年10月17日

・加藤段蔵壽閣「その心、人に似て」配信

2018年10月13日

・Fate/Grand Order 缶バッジvol.6 (アミューズメント景品/セガ限定) に風魔小太郎

2018年11月12日

・Fate/Grand Orderウエハース5風魔小太郎

2019年1月29日

・渡れい先生による「英霊剣豪七番勝負」コミカライズが「週刊少年マガジン」マンガアプリ「マガポケ」にてコミカライズ配信開始

2019年7月4日

・ヤングエース 磨伸映一郎先生連載のFGO Duel漫画「渋谷決闘事件」に風魔小太郎が佐々木少年先生のアバターとして登場、以降アバターとして出番あり初回は佐々木少年先生描きおろしの小太郎や色紙プレゼントがあった

コミックス限定版ではジャケットイラストで小太郎と主人公の絵面が隣り合っている

2019年7月30日

・ローソン限定Google Playギフトカード 5,000円券にFGO限定デザインイラストレーターMika Pikazo先生の描き下ろしのイラスト三種内のアルトリアの絵柄の背景に風魔小太郎

2019年8月3日

・Fate/Grand Order4周年記念リアルイベント「FGO FES. 2019 ~カルデアパーク~」に於いて豊イベントの詳細発表
風魔小太郎の水着墨衣「夏休み満喫用忍び装束」が発表される

2019年8月14日

・「見参!ラスベガス御前試合~水着剣豪七色勝負!」配信開始

2019年11月27日

・「ナイチンゲールのクリスマス・キャロル」に風魔小太郎
本人が口にした鬼化後の身長が何故かマテリア/アルIVのものと一緒にしていない

2019年12月26日~2020年1月7日

・FGOお正月限定LINEスタンプ第2弾に風魔小太郎

2020年1月1日

・ニューイヤー2020ピックアップにて「晴れの曙」礼装が実装される
イラストレーターはkazeto先生
風魔小太郎とぐだ男・ぐだ子が同じ礼装の中にいるのはこれが初

2020年1月4日

・TVアニメ「Fate/Grand Order-絶対魔獣戦線バビロニア-」第12話の新規EDアニメ内、ウルク退場組の中に風魔小太郎の姿が描かれる

2020年5月25日

・FGO5周年企画「under the same sky」
第2弾に於いて新潟日報誌面を風魔小太郎が飾る。
苗場スキー場を滑走する風魔小太郎の姿は
佐々木少年先生の描きおろしであり、台詞は
「さあ行きますよ、主殿!滑走!(マスター!バラレルターン!)」
ぐだと一緒にスキー場に来ているのである。

ぐだこたの歴史はまだまだ続く!



前半は90pにあるよ!

……
あと一息だ

みんな！
今魔力を送る！

主従、遊牝む夜

卍

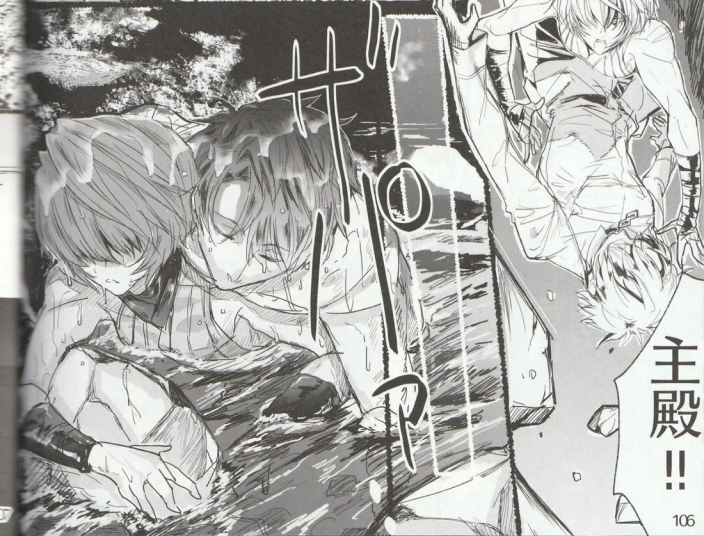
敵の自重で……
地盤が脆く……ッ！

……いけません！
主殿！

令呪を持って

命ずる

主殿ッ！！



…主殿！

主殿っ！

…まずいな…

水を飲みすぎて
いるのか…

…主…

…ご無礼
お許しください

我が、主…

144
ん

144



……ッ！、は……

お気づきに
なられましたか
主殿

ここは打ち捨て
られた民家の
ようです

狩猟の時期にだけ
狩人達が住んで
いたものかと

この一帯が
化生共に占拠され
山を下りたか
殺されたか……

そう、か……

この服も……？

主殿の魔術礼装は
濡れてしまったので……
無礼を承知で
着替えさせて頂きました

いや……いいよ
それより……

……ッ！
そうだ俺……ッ！

ごめん!!
俺が先走った
か 崖から……ッ！

あッ
主殿ッ

動かないで
ください……ッ
崖から
落ちたのですよ!?

お嬢に!!

うッ!!



今日はもう日が暮れる…主殿とのパスなしに

天草殿達も闇夜で無茶は出来ません

主殿…どうかゆっくりと体をお安めください

明日皆と合流するまで暫し我慢を

身の回りのことは僕がお世話しますから…

小太郎…

では…主殿

『あーん』



……

どうした…!?
どこか悪…!?

大丈夫です

いえ

小太郎ツ!?

ハッ



小太郎…ツ
怪我してたのか…?

…いえ
…その、血は
もう止まって…
衣類の修復にまで
魔力を回せないだけで…

あ、あのっ
主殿ッ

ほんとうに…僕は
大丈夫ですから…ッ

だーめ俺が
心配だからって
小太郎が無理したら
意味ないだろ

小太郎が倒れちゃったら
俺一人じゃ何もできないよ

う…

こうしてくっついていれば
ちよっとは俺からの魔力で
小太郎をラクにできるだろ


それにさ

…こうしていると
下総で一緒だった時を
思い出さない？

倒れた小太郎を
俺が手を繋いで寝て…

…

それは…



…僕は…僕もです
下総のことを思い出しました
けど、思い出したのは
主殿とは違う場面です

主殿が崖から落ち行く時…

あの時

「下総で主殿が
僕らとはぐれた時

僕と離れている間に
貴方は酒呑童子の手で…

もう、あんなことには
させない

…主のことは
僕が守る

小太郎：

だからあんなに必死に
俺の世話を……？

……それこそ怪我だって
何も言わないけど

落ちる時
俺を庇って出来た
傷なんじゃないのか……

……我が、主……

ひとつ
ご提案があります。

今宵……
どうか、僕に

貴殿のお情けを
頂きたいのです……

悔しいですが
僕がこの状態では
敵に遭遇しても
満足な戦闘ができない

手を繋ぐよりも深く
貴方からの魔力の
流動を僕に……
……僕に主を守らせてください



あなたを守る為

セッ…!?

な、情けって…?

セックス
共寝です。

…主殿、どつか…

僕にと慈悲を



主殿の雄魔羅で
造られた魔力を

僕の中に…
注ぎ込んで頂
きたいのです

あ…♡



Chun♡

Chun

こたろ…っ

…主、殿…♥

…ほんとにこれで
俺の魔力小太郎に
伝わってるの…？

…小太郎

はい…♥性的に
高揚した主殿に
こうして体を摺り寄せて
いるだけで

はあ♥

主殿のお人柄のように
暖かいます…♥

美しき

ちゅっ♥
ちゅっ♥

ん♥

ん♥

ハア…♥

ハア…♥

フツ♥



こ…小太郎…

く、くち、つきだして
あの小太郎が…っ

よかった…
主殿僕に…
勃してくれてる…

んっ♡

あんっ

…っ

小太郎…
っおれ…おれ…
ほんとにこういうの
はじめてで…

俺なんかなんの取柄もない
一般人なのに
英霊の小太郎に
こんなことさせて…

しかも童貞

童貞だし

き…キスだつて
まだの童貞なのに…

キス…?

くちつけですか…?

ゴウゴウ

ミミ

ちゅっ
ちゅっ
ちゅっ

もわっ

ドクッ

ドクッ

ドクッ
ドクッ

くちつけ…
くちつけ…

主殿…どうか
自分には何の
取柄もない…などと
言わないでください

…あつ…

時として他人の為に
自らを省みない…
僕ら忍を消耗品扱いしない…

主殿!! 僕は!!

忍びとして貴方に
お仕えした時から!

己の全てを貴方に捧げる
覚悟が僕にはあります!!

貴方という主の為に
自分の全てをさせることは
僕の無上の喜びなのです

…そんな貴方
だからこそ…

主殿が童貞
だというのなら

恥じらうことは
ありません
この小太郎にお任せを

僕が主殿を男にします

ですから主殿
男の僕では不足
かもしれませんが…

あ…主…!!

どうして自分の頬を
叩くんですか!?

いや…

ごめん…小太郎…

重貞とか…

小太郎は本気なのに
俺だけビビってるの
男らしくないよな

俺も覚悟が
決まったよ

小太郎の真剣さ
に惚えたい

俺は小太郎の
マスターだから

小太郎…

しょう



僕の雄膺に
主殿にご満足頂けた
でしょうが！♡

あっ♡
あゝ♡
あゝ♡

あぁ！スゴい！
悦がった！

沢山！射精して頂けて
小太郎は本望です！♡

なあ！
まだ！魔力！
要るよな！？

体位！
変えてもう一度！
平気！？

んっ♡はい♡
我が主♡♡

僕主の
お心のまま！♡



小太郎…

…あつ…
あるつ…
待つ…



その…
…口つけまで
僕が頂くわけには…

…どうかそれは

主殿のお慕い
する方との為に…

……



…!?
あつ、
あの、

あるじ…つ
ですから口つけは

…関係ないよ

え…

ちゅ

あ…♡



ああ…主殿…♡
口づけは主の愛しい方と
と言っているのに…♡

小太郎…



はあつ♡
初めてとは
思えないほど
お上手になって…♡

主殿…♡

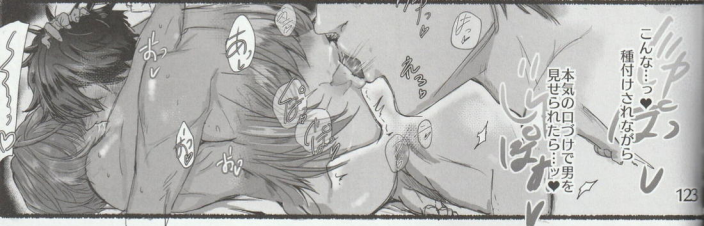
あん♡

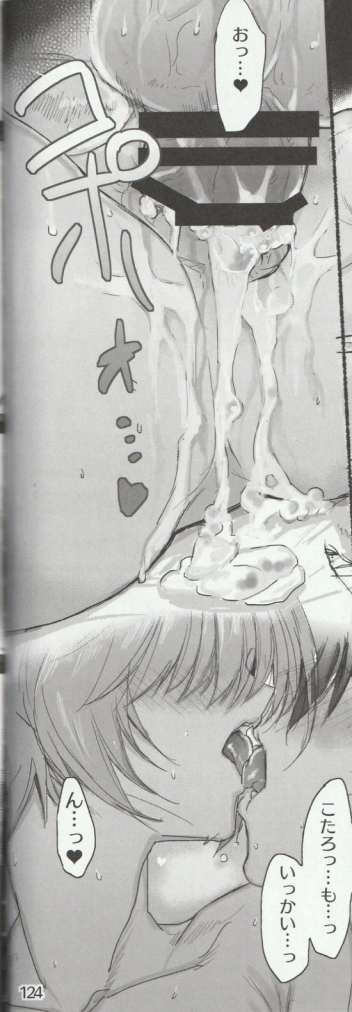
キス♡
だめ♡



こんな…♡
種付けされながら
本気の口づけで男を
見せられたら…♡

あ♡





おっ...♡

知

ハ

オ

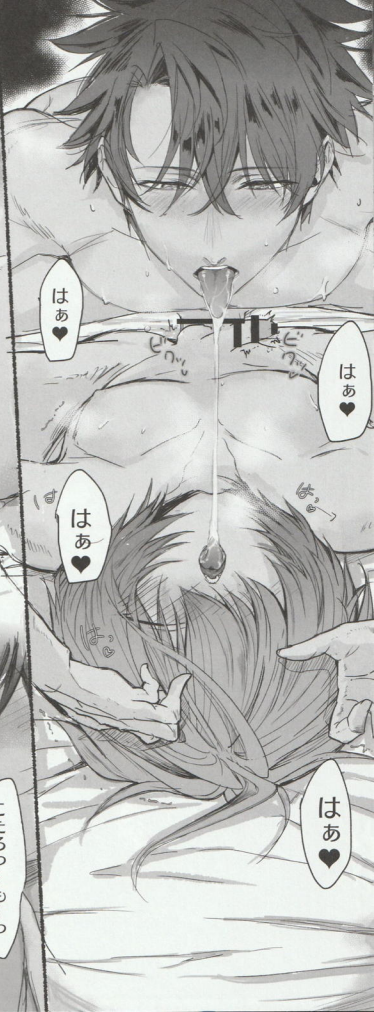
...

♡

ん...♡

こたろっ...も...っ

いっかい...っ



はあ♡

はあ♡

はあ♡

はあ♡

小太郎っ
俺の魔力っ
感じてるか？

あっ♡主殿
すごいです♡
濃い魔力のどろろ♡
精子♡

僕の最奥まで
届いてますっ♡
びゅくびゅく♡

ポ
やばいっ…もう…
小太郎っ…

もっ♡
じゅっ♡
…

…っ♡
また出るっ♡
小太郎っ♡

あっ♡ああっ♡
あるじゅっ…イ♡

あ♡♡あ♡♡



ハッ
ハッ

さて：日も登り
ましたし早速
天草殿達と合流
してしましましょう。

……？
……？
主殿
如何しました？

おや……
主殿！僕の放つて
おいた土鳩が

いや……

そうだね……

主殿
小太郎殿

!!

お
早速牛若殿達を
連れて来て
くれたようですよ!!

……？
……？
……？
……？

申し訳ありませ
んが
戦闘の準備を
!!

怒怒怒怒怒!!

大変だ……！
小太郎！
俺達も加勢するぞ！

承知！

うん？

あの……主ツ
開幕宝具を
提案します！

よ……よーしッ
じゃあ速攻行くぞ
小太郎!!!

これは
たったの
一夜だけの
俺と小太郎の
秘密の話

その……
大分たつぷりと

魔力を頂いて
しまいましたので……

皆さんに
謝られるかと……

はいっ
我が主ツ

おわり

後書 ✕



「Fate/Grand Order」ぐだ男（藤丸立香み/男主人公）×風魔小太郎アンソロジー
「色に出にけり僕らの恋は」をお手に取って頂き、ありがとうございます。
主催の出です。

こちらの本は2020年の夏のコミケ、スパコミを本来の発行予定日としていましたが
コロナウイルスなどの影響でのイベント開催中止続きで発行が先延ばしになり
さらに主催の私的事情でも先延ばしとなってしまった為
楽しみにしてくださった読者の皆様、そして執筆者の皆様には
大変申し訳ないことになってしまい、重ねてお詫びいたします。

また、主催の執筆してくださった皆様、表紙を描いていただいた友田様、MOBY様
ほんとうにありがとうございました。沢山の方のご協力とご厚意で素晴らしい本に
することができました。

色に出にけり僕らの恋は



このアンソロには、隙間ページで「ぐだこたの歴史年表」
（というよりも風魔小太郎の歴史年表ですか）を作り掲載してみました。
内容は主催の主観に寄る為、完璧なものではないでしょうが
小太郎君でこんなことあった。あんなことあったなということ

いつかFGOのサービスが終了した後、思い出のようにこの本を開いた人に
懐かしんでいただければと思います、作成しました。

延期続きになったアンソロでしたから、風魔小太郎君
FGO5周年広告企画[under the same sky]新刊海日報掲載おめでとう。
これを紙媒体の記念に残すことができたのだけは、遅延したおかげなので
それだけは怪我の功名だと思っています。
この先FGOでぐだこたにどんなことが起こるのか
小太郎君の第二宝具は発動するのか、期待と恐れ半々の日々ですが
風魔小太郎とぐだ男に更なる発展あれ。

2020.6.万時ランド/出



執筆者 コメント



お名前: つまじろ
url: @ssawa4176

PR/コメント:


お名前: 坂田
url: pixiv id = quon

PR/コメント:


お名前: かり者
url: @herimomom

PR/コメント:
アンソロ発行
おめでとうございます！
お誘い頂きありがとうございます
ございました♡

お名前: あお子
url: @aadokkoj

PR/コメント:

原稿中、今も誰かがえっちな
ぐだこたを描いているんだと
思うと、大変興奮しました。

お名前: あさの
url: @asano_moi

PR/コメント:

ぐだこたアンソロ
発行おめでとうございます♡
ございます！！



お名前: ぽってい
url: @popottiee

PR/コメント:
服は脱がしても
マフラーだけは
残したいです
(くそでか大声)
お誘いありがとうございます
ございました！！

お名前: もちだ
url: @iro8nihohe10

PR/コメント:

お誘いありがとうございます

お名前: ぶかぶ
url: @nkdume

PR/コメント:


お名前: といとい
url: @toitoi332

PR/コメント:
アンソロご発行おめ
でどうございます！
ぐだこたに幸あれ！


お名前: ペー太郎
url: @metyask

PR/コメント:
ぐだこたアンソロ
発行
おめでとうございます！！
参加くださり
本当に嬉しいです
ぐだこた
に幸あれ！！


お名前: **Un-do**
 url: [pixiv=167447](https://www.pixiv.net/member/entry.php?pid=167447)

PR/コメント: **さんぽ**
 ほこ



お名前: **カトおこめ**
 url: [@kar.okome](https://www.pixiv.net/member/entry.php?pid=@kar.okome)

PR/コメント:



お名前: **かえで**
 url: _____

PR/コメント:
 ぐだこたアンスロ
 発行おめでとうございます!
 小太郎くんはかわいくて
 えっちでいけないかな...



pixivID:4663273

お名前: **ミミミ**
 url: [@mitumints](https://www.pixiv.net/member/entry.php?pid=@mitumints)

PR/コメント:
 ぐだこたアンスロ
 発行おめでとう
 ございます!!

色々とBESTY
 只ねのつくりおきしあがり!
 かわもり図と並べたりして
 楽しくしてます!
 twitterは遊びしてます! EMO!




お名前: **ちまる**
 url: [@nnyarac](https://www.pixiv.net/member/entry.php?pid=@nnyarac)

PR/コメント:
 お誘い
 ありがとうございます!!



お名前: **守来宗時**
 url: [PIXIV:30502959](https://www.pixiv.net/member/entry.php?pid=PIXIV:30502959)

PR/コメント:
 もう一編は
 主の無礼感
 書き加え
 入っていた



ぐだこたアンスロ
 発行おめでとうございます!

お名前: **かこ**
 url: [@kakocacoo](https://www.pixiv.net/member/entry.php?pid=@kakocacoo)

PR/コメント:
 アンスロ発行
 おめでとうございます!
 大好きな2人の本へ参加できて
 この上なく幸せです!!!!!!



お名前: **シガナリ**
 url: [@Sknojiisan](https://www.pixiv.net/member/entry.php?pid=@Sknojiisan)

PR/コメント:
 お誘いありがとう
 ございました!
 スケベを履着やがって...
 おめでとう...



お名前: **背筋**
 url: [@kinkinkinniki](https://www.pixiv.net/member/entry.php?pid=@kinkinkinniki)

PR/コメント:
 ぐだこたアンスロ発行
 おめでとうございませう!
 大好きな二人のアンスロ
 に参加する事ができて
 幸せです...今からすごく
 すごく楽しみです!




お名前: **空蜂ミドロ**
 url: [@jjjackass](https://www.pixiv.net/member/entry.php?pid=@jjjackass)

PR/コメント:
 小太郎いいね...



お名前: **かめなが**
 url: [@kamenakaoji](https://www.pixiv.net/member/entry.php?pid=@kamenakaoji)

PR/コメント:
 ぐだこたアンスロ発行
 おめでとうございます!
 ぐだこた中心で
 活動中です。
 何かの機会に
 またお会い
 できる事を
 心待ちに
 しております!





Fate/Grand Order
ぐだ男(藤丸立香♂) × 風魔小太郎 成人向けアンソロジー

色
ら
の
恋
は
け
り



発行日:2020年6月7日~13日 エアブ-CITY&FES
発行者:卍
サークル:万時ランド
連絡先:manzi.dojin1014@gmail.com
印刷所:栄光様

表紙イラスト:友田様
表紙デザイナー:MOBY様(@MOBY221)

素材お借りしました

シルエットデザイン様
Frame Design様
Bg-Pattrens様
EVENTs Design様
南国風のイラスト&パターン (bamboo様)
河川01-溪流編-(漣青炭様)
紙吹雪素材(トリメヤ様)
和の建具(さのすけ様)



主催twitter:@gdkotakawaii_oz

巻頭 ILLUSTRATION

ねり者

あお子

つま♡じろ

あさの

ぼっぺい

友田

祀

ILLUSTRATION

なかだ

もちだ

空蜂ミドロ

COMIC & NOVEL

といつい

ペー太郎

ちーまる

UN-do

カリーおこめ

かえで

かめなか

ミシミ

シカナリ

かこ

守来宗時

背筋

祀

MOBY

表紙デザイン

友田

表紙イラスト

祀

主催

色に出にけり僕らの怒は

全だ男×風魔小太郎

成人向けサマシロジャー

成人向
adult only